

# 北河内会報 自然愛好会

2020年5月31日№.108

北河内自然愛好会発行

事務局：大東市野崎 3-7-7

西畑敬一 方

ホームページアドレス：<http://www.cc-net.or.jp/~ja3aeh/3shizen/3-3kitakawati.htm>

第 411 回例会「京都府立植物園の例会で出会えた春の妖精たち」京都市 2020年2月29日(土)

栗田泰子

小雨模様の植物園の北山門に集まったのは物好きな6人のみ。

取り敢えず入園すると園内は新型コロナウイルスの影響もあり人の姿は疎らでした。その為かワイルドガーデンの花たちも寂し気に見えました。雨は降ったり止んだり、傘がなくてもそんなに濡れるほどではありませんでした。(傘を置き忘れて失くした会員さんがいるほどの雨でした)

植物生態園に向かう途中にスノードロップの可憐な花が沢山咲いていて目を楽しませてくれました。スイセン、キズイセン、クロッカス、シクラメン・コームなども花盛りでした。午後から雨がきつくなりそうなので梅や椿は目を向けるだけでやり過ごし、本日の主眼の植物生態園に向かいました。

最初に目に留まったのは春の妖精のセツブンソウ。セツブンソウは生態園の随所随所に咲き誇っていました。葉っぱだけのニリンソウ、楚楚としたキクバオウレン、オドリコソウ、フクジュソウ、ユキワリイチゲ、ヤマアイ、トキワイカリソウ、コショウノキ、オニシバリ、ジンチョウゲ、ゲンカイツツジの白花、ユキツバキ、シキミ、ネコヤナギ、ネコヤナギの突然変異種クロヤナギ、絶滅危惧種のオオシロショウジョウバカマ、フキノトウ、ミズバショウ、アセビ、ノシランの綺麗な青い実、アマミセイシカ、アマミアセビ、ゴモジュ?

シダ類では孢子葉を伸ばしたハナワラビの類があちこちに出ていました。他にはイシカグマ、クサソテツ、コバノカナワラビ、オオカナワラビ、ホソバカナワラビ、フモトシダ、ハカタシダ、ハチジョウカグマ、コモチシダ、イヌカタヒバ、クリハラン、イワガネソウ、イワガネゼンマイ、イヌケホシダ、ヤブソテツ等々。ナガサキシダは今回探せませんでした。ゆっくり見ればもっと沢山の早春の花が見られたのだと思います。

生態園から出て芝生広場でテーブルを囲み皆でお昼ご飯を食べていたら翼長1mはありそうな大トンビが突然舞い降りて、パンをかじっていた私の手元を後ろから急襲されびっくり仰天! その俊敏な動きと正確な狙いは目にも留まらない速さでした。やはり猛禽ですね!! 昼食を奪われてしまった私に、稲原さんがお昼を半分犠牲にして恵んでくださり空腹を凌げました。その後暫くはトンビの話題に花が咲いた次第です。

帰りはシナマンサク、ミツマタなどを鑑賞しながら植物園会館に向かい休憩タイムを取ってから植物園を後にしました。園内では早春の草花展と早春の園芸市が開催されていて珍しいものが一杯展示されていました。こうやって人の手で栽培された植物たちは鑑賞したり、珍しいものを求める人には喉から手が出るほど欲しいのだと思いますが、「やはり野におけ蓮華草」、山野でひっそり暑さ寒さに耐えて育つ植物に思いがけなく出会う方が見劣りはしても可憐で愛しくていいなあというのが本音でした。

色々予期せぬ珍事あり愉快的な半日でした。稲原さま、そして博識で尋ねたら答えて下さる田中さま、お世話になり有り難うございました。

◎その他観察植物名：シズネノキ(実) ミカエリソウ(枯葉)

◎参加者：栗田泰子、影千恵子、北川ちえこ、波多野恵子、稲原良三、田中光彦(以上6名)

(蛇足)シダ植物の植わっている所で長さ30センチ程の黒い蛇体を見つけたが、近寄っても動かないので、私が近くに落ちている木の枝を拾ってツツツと突いていると、後から来た北川さんがミイラになっていると言い、そのあと影さんが手を伸ばしてヒョいとつまみ上げると、これはオモチャの蛇だよと言って、もっとわからないように置かないと誰も驚かないよと、女性たちがああだ、こうだと言いながらオモチャの蛇を工夫してセッティングしていた。女性は怖ろしいものだ改めて思った。前

述の色々予期せぬ珍事の中にはトンビだけでなくこのことも入っていると思われるので書き足した。  
(田中)

◎以下の例会は新型コロナ感染防止のため中止になりました。( )内は予定担当者

第 412 回例会 3/28 「野草を食べる一山田池公園」枚方市(稲原良三・西畑敬一)

第 413 回例会 4/12 自主参加「下田原の里山・里山一斉調査」四條畷市(太田理)

第 414 回例会 4/26 「枚方市尊延寺から甘南備山の植物」枚方市(木村雅行)

第 415 回例会 5/16 「城北ワンドの植物」大阪市(田中光彦)

皆さま、遅くなりましたが、5月例会(城北ワンド)はやはり中止にしたいと思います。緊急事態宣言が今月末日まで延長された中で団体行動をとることには無理があります。また、電車にも乗らなければならず、万一のことを考えると中止がベストだと思います。また来年以降も生きて元気であれば、機会はあると思います。(田中光彦)

### 《投稿》「コゴメイヌノフグリ」田中光彦 2020/03/13

オオバコ科コゴメイヌノフグリは、イヌノフグリの仲間では珍しく白い花をつける種類です。イヌノフグリ・オオイヌノフグリ・タチイヌノフグリに比べてフラサバソウはずいぶんと毛の多い種類ですが、コゴメイヌノフグリは果実にも茎にもたくさんの長毛が生えていて、この仲間では最も毛深いと言えるでしょう。最初は東京の小石川植物園で1960年に植栽されたものが10年後には園内はかなり広がり、その後外部に逸出して、東京都内に徐々に分布を広げているようです。

私が初めて見たのは、1970年前後の頃、小石川植物園から採集されて自宅で育てておられた本会会員の天野史郎さんのお宅でした。その後近年になってから京都植物園でも帰化種として見られるようになりましたが、まだ植物園以外の場所で帰化植物として見ることはありませんでした。

ところが、2020年3月11日、寝屋川市河北東町の河北病院の近くで偶然見つけることができました。外環状線の横の通路と深北緑地との境界にあるフェンスの下の側溝沿いに約30メートルに渡って白い花が咲き誇っていました。天野さんは寝屋川市の方なのですが、同じ寝屋川市で見つかったとは言え、あんな所を彼が通って、種子を落としていったとも思えないような、地元の人でもあまり利用しないような通路です。では WHO・WHEN・WHAT・HOW?

何もわかりませんが、コゴメイヌノフグリが野外で帰化植物として見られるようになったことは確かです。ものすごい繁殖力を持っているので、今生えているものを全て抜き去っても決して絶えることはないと思います。今後も見守っていきたいと思っています。

### 《投稿》「北河内の里地里山に春を求めて」粟田泰子 2020/04/10

中国の武漢から始まった新型コロナウイルス感染の拡大であらゆる行事が中止となり遠出も気が引ける昨今です。そんな人間世界の騒ぎとは無縁に春は訪れ、山野には野花が咲き誇り、観る人影も疎らな中で早々と店仕舞いする慌て者もいる今年の春、寂しい限りです。この騒ぎの中で、散歩がてら春を求めて近場の野山に出かけてきました。

2月：交野の西谷山下部の枯木に、冬の乾燥気味の中でもアラゲキクラゲ、スエヒロタケ、ハリタケの仲間が沢山出ていました。

3月：交野山への登り下りで、ヤマネコノメソウ、ハルジオン、ヒガンザクラ、アセビ、ホトケノザ、タマキクラゲ。穂谷では、タチツボスミレ、ニシノオオタネツケバナ、ヤマネコノメソウ、ヤブツバキ、ゲンゲ、クサノオウ、ショカツサイ、フキノトウ、アレチノギク、イワナシ、セイタカハハコグサ、ヘビイチゴ、ヒサカキ、チチコグサモドキ、コセンダングサなど、香里ヶ丘では在来種のイヌノフグリが可憐な白い花を咲かせていました。室池まで足を伸ばすと、シハイスミレが参ったかと言わんばかりに咲き誇りニオイタチツボスミレ、タチツボスミレ、ナガバナタチツボスミレのタチツボ三姉妹が交互に現れました。里ではヒメスミレも仲間入りです。ミヤマガマズミやニワトコも蕾をつけ、ヤマザクラ、クサイチゴ、ショウジョウバカマ、ムラサキサギゴケ、ムラサキケマン、ヤブツバキ、ヒメウズなども咲いていました。

4月：白旗池近辺で咲いていたのは、ヤマエンゴサク、ニリンソウ、コブシ、ヤマザクラ、クサイチゴ、ナガバモミジイチゴ、ショウジョウバカマ、シハイスミレ、タチツボスミレ、ニオイタチツボスミレ、ムラサキケマン、シャガ、キランソウ。ほぼ白色のショウジョウバカマ、チゴユリの芽生えもありました。河内森からくろんど池近辺ではラショウモンカズラ、ヤマツツジ、モチツツジ、コバノミツバツツジが咲き揃い、センボンヤリも既に花。ミツバアケビも蕾でした。ヘビノネゴザもおはようご挨拶。この日オオルリの美しい鳴き声が聞かれました。穂谷ではウワミズザクラが早くも蕾をつけていました。

3月から4月にかけて市街地、田畑、山地でいつも見られたのがセイヨウタンポポ、カンサイタンポポ、ノゲシ、ハコベ類、オランダミミナグサ、オニタビラコ、ノボロギク、ホトケノザ、ヒメオドリコソウ、フラサバソウ、オオイヌノフグリ、ミチタネツケバナ、タネツケバナ、ノミノフスマ、ゲンゲ、キュウリグサ、スイバ、ムラサキケマン、コバノミツバツツジ、モチツツジ、ナズナ、ショウジョウバカマ、スズメノヤリ、ヌカボシソウ、ヒメカンスゲ、ツクシ、アセビ、シャガ、シハイスミレ、タチツボスミレ、ヒメスミレ、カラスノエンドウ、ツメクサ類、クサイチゴ、ナガバモミジイチゴ、スズメノカタビラ、カタバミ、ムラサキカタバミ、ユキヤナギ、アリアケスミレ、ヒメスミレ、ムラサキサギゴケなどのお馴染みの野の花たちでした。

4月の声を聞くと待ちかねたように色んな花が咲き競い、シダも芽生えるようになりました。今年は観察が一番楽しい時期に残念なことです、身近な植物を一人でゆっくり観るいい機会と受け止め、せつせと畑近辺の野歩き散歩を楽しんでいます。

行く春をコロナの騒ぎと過ごしけり

お粗末でした。

#### 《投稿》「生活雑感 私の趣味」西畑敬一 2020/04/13

私の趣味、それは園芸の一語に尽きる。昭和22年6月、小学1年生で、現在の地に引っ越してきてこの方、70有余年今日までただ園芸を友として過ごしてきました。低学年の頃は野山に生える雑草を手当たり次第に家に持ち帰り借家の狭い庭に植え、学年が進むにつれて段々と園芸植物を手掛けるようになりました。それにつれてお金もかかるようになり、おこずかいやお年玉を貯めて春、秋の種や球根の購入に費やしました。

植物という奴は可愛いやつである。こちらが愛情をもって育ててやれば、その愛情に報いるが如く美しい花を咲かせ、反対に愛情も手間もかけずに放置していると、こちらの心を見抜くが如く、しょんぼりして萎れて大きくならず、ついには枯れてしまう。本当に生き物という奴は現金な奴であり、また可愛いやつでもある。

植物を育てる楽しみというものは、犬や猫、小鳥などを飼う楽しみが育てたものにしか分からない様に植物もまた植物を育てたものにしか分からないのである。そこが植物の持つ魅力と神秘さであり生きることの重大さ、耐えることの大切さ等色々なことを教えてくれる。

一口に園芸といってもいろんなものがある草花や盆栽、樹木を育てるのも園芸なれば野菜や果物を育てるのも園芸である。私は、前者の方、すなわち草花や盆栽を育てる方である。中でも熱帯性の植物や古典植物が好きである。現在我が家にはいろんなものが雑然と植えられ四季を彩っている。早春のマンサクをはじめウグイスカグラ、梅、ツバキが咲きクンシラン、エビネ、ウラシマソウ、コウライテンナンショウが花をつけている。温室ではミニカトレヤをはじめシンビジュウム、コチョウラン等の洋ラン類や観葉植物のアンズリュウム、ウツボガズラが生き生きと育っている。

園芸の趣味という世間では、年寄やご隠居さんのする道楽のように言われるがそんなことはない。現に今は貸農園やガーデニングがブームで高齢者をはじめ老若男女問わず土に親しもうとする環境にある。植物のもつ魅力や神秘さ、美しさにはだれもが心を惹かれるものである。現に、梅の花、サクラ、菊の花を見て美しいと感じない人はいないはずである。日頃、人の心の中にはいつも、美しいものを見ようという心が宿っているからである。ただ、作ったものを買ってきて身近に飾って美しいと感じるか、自分が手間暇かけて育て上げ、花を咲かせ、実を結ばせることに喜びを感じるかが、園芸を趣味とする人とそうでない人との違いでは無いだろうか？

園芸とは、奥の深い、終わりのないジャンルである。やればやるほど分からなくなりむつかしくなる

ものである。だけど、そこに楽しみがあり生き甲斐がある。わたしも残りの人生を目に見えない楽しみや生き甲斐のため、そして植物から何かを学び取ろうと、今後もこの園芸という趣味を続けていこうと思う今日この頃です。

### 《投稿》「田原の里山だより」太田 理 2020/04/16

今年の春は世間では異変が起こっている。新型コロナウイルスだ。里山一斉調査も中止になった。外出自粛が要請されて、ほとんど外に出られない。多少の健康維持のため、一人歩きはいいだろうと、田原の里山に出かけた。

堂尾池ハイキングコースの入口ゲート。横の田んぼにレンゲやカンサイタンポポ。川沿いの緩やかな登りにカキドオシややムラサキケマンが群がって咲いている。ウグイスの鳴き声も聞こえる。ふと上を見上げるとコバノミツバツツジのピンクが、今日はいいお天気なので輝いているように見える。ガサガサとカナヘビも姿を見せる。低い木の葉の中で何かが動いている。チュルチュルとせわしく鳴いている。メジロだ。遠くで鳴いているのはオオルリか。

どっぴー広場ビオトープはイノシシ侵入防止柵が全面に張られている。私たちビオトープの会も手伝った。道端にスマレが何種類か見られる。タチツボスマレやツボスマレ。春先早くに咲くショウジョウバカマがまだ見られる。いつもの場所に群生しているチゴユリはそろそろ咲き出してきている。どことは言えないがシュンランも花を付けている。

反転して薬尾寺池の方に向かう。ショウジョウバカマがひっそりと咲く水溜まり、残念ながら去年に引き続きカサミサンショウウオの卵が見えない。枚方高校生物飼育部の皆さんが努力して繁殖を助けてくれているのだが。池の傍のところに何か燃やした跡が。いつもよく来る釣り人たちが、こんな見たらまた燃やしよる、と言って片付け、痕跡消しをしてくれていた。

尾根道を辿る。アオモジの黄色が美しい。里山の動物の痕跡を見つけようとするのだが、一人ではなかなか難しい。モグラの通った跡、リスの食痕のエビフライが一つだけ。田原台一丁目に出る。

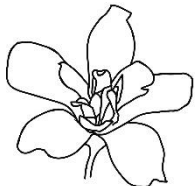
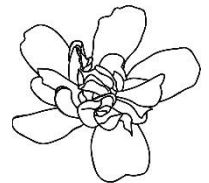
### 《投稿》「身近な植物の花の観察」木村 雅行 2020/04/18

世間の情勢や体力の衰えなどにも負けず、できる範囲で身近での植物の観察を続けるのもまた楽しいものだと思います。これまで私が少し楽しんできた事例のいくつかを紹介したいと思います。

#### (1) ムラサキカタバミ (カタバミ科) の花の変異

ムラサキカタバミは南アメリカ原産のカタバミ科の多年草で、江戸時代末期に観賞用として導入されて以降、各地に広がった帰化植物です。日本では種子を付けず繁殖は牽引根と鱗茎の間にびっしりと生じる木子(小さな小球根)で行われます。非常に旺盛な繁殖力があり環境省の要注意外来生物となっており、私の家の軒下にも絶えることなく生えています。

主に春～初夏に咲き、花は青みのある濃い桃色で花筒部奥は白く抜け、花の中心部に向けて緑色の筋が入るといふ微妙な美しさがあります。この花をたくさん観察してみると花弁の数が多くなったものを見つけることができます。いくつかの雄しべなどが花弁化したものだと思います。この変異は結構不安定なもので、同じ株・同じ花序の中でも正常な花と混ざり、その程度もさまざまです。



北河内では5月下旬から6月下旬ぐらいが最も多く咲いていて観察の適期だと思います。この多弁花は運が良ければ次々と見られ、悪ければなかなか見られません。是非、一度探してみてください。

#### (2) センニンソウ (キンポウゲ科) の花の変異

センニンソウはキンポウゲ科のつる性の半低木で、北河内では日当たりの良い林縁などでよく見かける馴染みある綺麗な花です。白色の花は直径2-3cmで、上を向いて咲きます。十字形の白い花弁のように見えるものはがく片で普通4枚あります。

ところがこの花をたくさん見ていると、花序の中にかく片が5枚だけでなく6枚の花もいくつか混ざっていることがあります。試しに家の近所でつるの先についた花序につく花のがく片の数を調べてみると次のとおりでした。北河内では9月中旬ごろから花が見ごろだと思います。

センニンソウ(6弁花) (カラー) →



2019年9月12日調べ(枚方市茄子作南町)

11花序につく68個の花のうち

4弁花が34個(50%)・5弁花が34個(50%)

2019年9月18日調べ(枚方市茄子作南町)

10花序につく34個の花のうち

4弁花が30個(88%)・5弁花が4個(12%)

2019.9.12 茄子作南町 (カラー) →



### (3) ドクダミ (ドクダミ科) の花の変異

ドクダミは湿った半日陰地を好む多年草で、家の周りや道端にも多くみなさんが見慣れた植物のひとつだと思います。花は5月から7月頃咲き、十字状に花弁に見える4枚の白色の総苞片を開きます。その中央に円柱状の花序をつけ微細な淡黄色の小花を密生させます。

昨年の枚方での植物調査の際に道端のドクダミの群落の中に小花の小苞も花弁化して少し八重咲に見える花をいくつか見つけました。その時はこんなのは普通にあるよと言う人もいました。でも、それから後は気をつけて見て歩きましたが運がよくなければなかなか見れず、そんなに普通ではありませんでした。これではまだ品種としてのヤエドクダミ (f. plena) とするには不十分かもしれません。この記事を読まれて普段見慣れたドクダミの花でももう一度見なおしてみようと思っただけならうれしいものです。



多弁化したドクダミの花 2019.6.5 尊延寺 (カラー)

### (4) ナガミヒナゲシ (ケシ科) の花の変異

ナガミヒナゲシは地中海沿岸原産の越年性草本で、空き地や耕作地・植樹地や道端など日当たりの良い場所に見られます。強健な性質と強い繁殖力で全国で1990年代に分布を広げた植物のひとつです。北河内目録2004の根拠標本を田中光彦さんが1994年5月に大東市北条で採集されています。当時は北河内では本当に稀なものだったはずで、私はこの頃に他府県の市街地で咲いているのを初めて見てその綺麗さと数の多さに感動したことをよく覚えています。この20年ぐらいの間に私たちのごく身近なところでも普通に見れるぐらい急速に広がりました。

4月から5月頃にふつう4弁の目立つオレンジ色の花を咲かせます。たくさん花を見ていると、花弁に黒い斑紋がついたものがあります。これはモンツキナガミヒナゲシと仮称されていますが、斑紋の大きさや濃さの程度は様々です。対向する2枚の花弁に斑紋が出ているものが多いですが、いろいろなパターンも確認できます。ナガミヒナゲシの花を見かけたなら一度その花をのぞき込んでみてください。



花弁に黒班の入ったナガミヒナゲシ



### (5) アオキ (アオキ科) の花の変異

アオキは人家の庭でもよく植えられています。北河内の山林などでも普通に見られる常緑低木です。花の色は雄花・雌花ともに赤紫色で果実は赤色に熟します。花期は4月上旬ごろですが、2週間ぐらいで見頃は過ぎてしまいます。果実は比較的長期間見られるので、アオキと言えば赤色や未熟な緑色の果実のついたものを思い浮かべる人も多いのではないのでしょうか。

2018年4月の下田原での例会の時に白緑色の花が咲いていた雌株を1個体見つけました。花の色が赤紫色の色素が欠けた白緑色であり果実が赤色のものはアオバナアオキとされています。北河内ではこれが初確認のアオバナアオキとなりました。その後、穂谷の山地でも数株の雄株の生育を確認しています。

たくさんのアオキの花を観察すると赤紫色の花が多いものの、赤紫色の色素が少し欠けた中間的な色の花もたくさんあることを知りました。ただし、完全に白緑色のものはごく稀です。春先の山地を散策されるときにはアオキの花の色の違いのいろいろを見比べてください。

(※編集は白黒ですが、カラー部分は「カラーグラビア版」をご覧ください。)



赤紫色 ⇔ (中間色) ⇔ 白緑色

アオキの雄花 2020.4.8 穂谷 (カラー)

### 《投稿》「野草に癒されて～私のミニミニ観察会～」鈴木 永子 2020/04/18

春爛漫だというのに新型コロナウイルス感染拡大の影響で予定はすべて中止、とかく暗い気持ちになりがちな毎日、ウォーキングだけは楽しみながら続けています。コースは寝屋川市の友呂岐緑地とその周辺です。たまにすれ違う人があるぐらいで人ゴミとは無縁なので安心して歩いています。

今、れんげ草(ゲンゲ)が花盛り、この時期だけれんげ畑が開放されていて、例年親子連れが花を摘んだり写真を撮ったりする光景が見られましたが、今年は殆んど人影がありません。少し前までは田んぼが白くなるほどのノミノフスマがありました。小さくて可憐で大好きな花です。田んぼ一面ノミノフスマとスズメノテッポウに埋めつくされていましたが、現在は耕運機で耕されすべて土の中です。

近所の空き地で、なぜか花の開かない白花のオオイヌノフグリを見つけ、田中先生にお尋ねしたことから(おそらく除草剤の影響だろうとの結論です)深北緑地にコゴメイヌノフグリが咲いているとの情報を頂き、早速高見さんと2人自転車で見に行つて来ました。オオイヌノフグリを白花にしたような可愛い花が群がって咲いていました。ひとつひとつは小さく地味ですが群生していると存在感があります。ノミノフスマ同様に大好きな花になりました。花は白くてオオイヌノフグリよりひと回り小さく、茎には目立つ長い毛があります。葉はオオイヌノフグリより横幅があり、やはり毛があります。コゴメイヌノフグリを見るのは今回が初めてだと思っていたのですが、忘れていただけでした。2017年4月、京都府立植物園観察会で教えて頂き、写真もメモも残してありました。今度こそ忘れないぞ!としっかり観察し脳に記憶させたつもりです。

その後その周辺も見て歩きました。コンクリートの割れ目にノミノフスマとよく似た草が・・・ノミノツヅリでした。花はうんと小さく4mmぐらいですが、ルーペで覗いてみると、雄蕊の先が赤くて何と可愛いこと、感激しました。カラスノエンドウ・スズメノエンドウ・カスマグサのそろい踏みが見られ、またハルジオンも咲き初めていました。ちなみにカラスノエンドウは「鳥の豌豆」ではなく「鳥野豌豆」、スズメノエンドウも「雀野豌豆」だそうですね、この間図鑑で初めて知りました。

深北緑地は桜が満開で、それなりに人出もありましたが、密集とまではとてもとても・・・気持ち良く楽しいミニミニ観察会になりました。

### 《会員交流コーナー》\*\*\*\*\*

§§<シロバナツタバウンラン>先日の4月9日、四條畷市雁屋西町でツタバウンランと並んでシロバナツタバウンランが生えているのをみました。枚方にもあるそうですが、私が北河内で見るとこれが初めてです。ツタバウンランよりも花が大きく立派な感じがしました。園芸種の逃げ出しだと思います。

(4/12 田中光彦)

§§<近況>北河内自然愛好会のみなさま、コロナウイルス感染騒ぎの中、皆様にはお変わりないですか。小生、総会時にもお知らせしましたように今年2月、右ひざの人口関節手術を行い、3月2日に退院し、経過も順調で過ごしております。皆様にはご心配やご迷惑をおかけして申し訳ありませんでした。コロナウイルスのため、3月、4月の例会が中止に追い込まれこの先も予断を許しません。一日も早く終息をして皆様のお顔を拝見したいと思っております。どうか、くれぐれも気を付けてコロナに罹らないよう注意をお願いいたします。(4/15 西畑敬一)

§§<新しいメーリングリスト>新しいメーリングリストができそうですね。これからまた便利になると思います。私の感じでは、近畿植物同好会ホームページの掲示板に匹敵するものだと感じています。どんどん皆さんに利用・活用して欲しいものと思います。(4/15・田中)

§§<ウラジロチチコグサ>近年ウラジロチチコグサが、キタウラジロチチコグサとミナミウラジロチチコグサに分けられました。花の時期にも根生葉が残っている方がキタウラジロチチコグサだと木村さんに教えてもらいました。昨日まで花の咲くのを待ってやっと確認できました。写真のものです。たぶんこれでいいと思います。(4/15 田中)

§§<ハランの花>3月21日に京都梅小路公園「いのちの森」で、ハランの花が咲いていました。ハランは3、4年前にクヌギやアラカシがある林に突如1枚の葉がでてきました。現在3枚の葉があるのみですが、期待もせず毎回根元を見ていました。ハランの知識は全くなく、やせた土壌でこんなに簡単に花が咲くのでしょうか？種がどこからやってきたのかも疑問です。花粉はキノコバエが媒介すると近年分かったそうですが、そんなハエがこんな孤立した森にやってくるのか、これも疑問です。ずっと見たかった花ですので、ただただ嬉しいです。(4/17 北川ちえこ)

§§<シロイヌナズナ>15日に守口市の清水5丁目交差点近くの歩道植え込みで大量のシロイヌナズナの花を見ました。YAKINIKU店の道路向かいから少し10mほど淀川方面へ行った所です。(4/17 北川)

§§<ビロードアカツメクサ>4月14日、マメ科シャジクソウ属のビロードアカツメクサ *Trifolium hirtum* All. を大東市中垣内3丁目で見つけました。花が咲いていなければ見逃してしまうところでした。ビロードアカツメクサは、南欧から北アフリカ原産の越年生の帰化植物で、英語ではローズクローバー *rose clover* というらしい。普通は緑色の葉らしい(帰化植物写真図鑑の写真)が、私が見たのは赤っぽい斑入りの葉で、園芸種の逃げ出しかと思うような感じでした。7、8株ありました。(4/18 田中)

§§<天野川のアオサギ>天野川でアオサギがへびみみたいな長いものを咥えているのが見えたので、近くまで行ったら、へびではなくてウナギでした。ウナギは暴れるので、なかなか飲み込めず、飲み込むのに10分ほどかかりました。でも、普通のウナギとは違うようで、帰って調べたらタウナギでした。(4/18 平 研)

§§<テントウムシの羽化>初めて見るテントウムシの羽化の画像です。①羽化が始まり、②頭部まで脱皮(黒く見えるのが頭部)、③斑紋が出現、④完全な成体になりました。観察開始から約1時間ほどで成体になりました。(4/26 西畑)

§§<テントウムシの羽化>珍しいものを見せて頂きありがとうございました。感動的だったでしょうね。羽化の現場に遭遇されたのですか？私なら気づかずにいるだろうと思います。飼育されていたのではありませんね。すっかり羽化するのに1時間もかかるそうですが、セミのように時間帯が決まっているのですか？知らないことばかりです。これからもよろしく願いいたします。(4/28 鈴木永子)

§§<アレチノエンドウ>昨日27日、寝屋川市でアレチノエンドウを見つけました。2013年5月に大阪市舞洲で見て以来です。埋立地でもないのにどうしてこんな所にと少し不思議に思っています。川の堤防道の法面に約60mに渡って生えていました。カラスノエンドウとよく似ていますが、花が大きく、血のように赤いのでよく目立ちます。カラスノエンドウの旗弁は裏側が白いけれどもアレチノエンドウは表側と同じ色なのでとても赤く見えるのです。写真②は表側から、③は裏側から撮ったもの、④は左がアレチノエンドウの裏側、右がカラスノエンドウの裏側です。旗弁の色の違い、花の大きさの違いがわかれると思います。なかなかきれいな花でした。見たい、という人がいたら案内してもいいのですが…(4/28 田中)

§§<アレチノエンドウ>アレチノエンドウの発見、さすが田中さんです。写真もきれいですね。非常事態宣言にまげず、今後も植物観察に励んでください。(4/29 天野史郎)

§§<ジュウニヒトエ>皆さま、お元気で、笑顔でお過ごしのことと思います。先月の4月11日に四條畷神社から飯盛山に登る途中で、ジュウニヒトエを見つけました。その時はまだツボミが固かったので、10日後の21日に再訪しました。その時の写真が①です。まだツボミでした。更に10日後にまた来てみ

ようと思っていたが、29日・30日と気温が高くなったので、30日の午後の様子を見に行ったところ満開に近い状態でした。(写真②③)

ジュウニヒトエは、かつて野崎でも西畑さんが見つけておられましたが、登山道脇だったためかすぐになくなりました。今回の場所は登山道から離れた、道のない林の中なので、人に採られるおそれはないものの、一株しかなく、大雨が降れば土砂崩れですぐに埋まってしまうような所です。北河内でも数少ない貴重種なので、なんとか生き延びて増えて欲しいものと思っています。(5/1 田中)

§§<カタボウシノケグサ>昨日、家から5分もかからない場所でカタボウシノケグサが50株以上生えているを見つけました。サツキの植え込みなので、サツキの土と一緒にやってきたと思われます。イネ科のカタボウシノケグサは二昔前に四條畷の砂で初めて見つけましたが、そこは現在ニコニコパチンコになっていて消えてしまいました。その後2016年に城北ワンドの大堤防下で1株だけ見つけて以来の再会となります。名前のカタボというのは、茎の片側を向いて穂がついているので片穂となったようです。コロナウイルスの為に、うさぎ小屋で逼塞していなければ見つけることはできなかったような気がしています。(5/5 田中)

§§<ヤガミスゲ>昨日、大東市の水路でヤガミスゲを見つけました。今まで淀川でしか見たことがなかったもので、珍しいと思いました。大きな一叢しかありませんが、フェンスがしてありあまり草刈りもされないようなので、いまのところ安心しています。水路の向こう岸ではバンの夫婦が子供たち4羽を引き連れてお散歩中でしたが、私を警戒して草陰から草陰へ移動するので、うまく写真に撮ることができませんでした。深北緑地以外でも繁殖しているようです。(5/8 田中)

§§<マメグンバイナズナの根生葉>昨日、自宅近くのコンビニの駐車場の隅で変な根生葉の植物を見つけ、よく見ると主茎の上に実が少しついていたのでマメグンバイナズナとわかりました。今までマメグンバイナズナの根生葉は見たことがありません。図鑑を見ると、花時には枯れてなくなる、とあります。今回は珍しいものを見たこととなります。根生葉の切れ込みなどからキレハマメグンバイナズナとも考えられますが、茎の上の方の葉を見ると、見たくても十数匹の青虫に食べられてほとんどないけれど、キレハではないようにも思えます。(木村さん、教えて下さい) 近くの電柱の下の隙間にもう一株、まだ花茎を伸ばしていない幼株のロゼットがあるばかりで、周辺を探したが他には似たものは見当たりませんでした。(5/10 田中)

◎異動：(敬称略)

退会：11/18 美籐ルミ(守口市)、12/16 古沢千恵(交野市) (前号の記載漏れ)

入会：榎本知恵子(1/25 高槻市)、川崎節子(1/29 岸和田市)、内山堅(1/30 四條畷市)

◎編集後記：新型コロナウイルス感染拡大防止、非常事態宣言などのため、当会の例会も相次いで中止。会報原稿が不足し、田中光彦さんが呼びかけてくださって、皆さんからの投稿をいただき、何とか会報ができました。ただ、印刷する所も閉鎖になっていて、発行が遅れることとなります。編集や投稿に関して、お気軽にご意見などお寄せ下さい。(太田)

【諸連絡の窓口】 ◇会の代表者・会長：西畑敬一 072-876-8114

◇会費の納入・会計に関して：稲原良三 072-892-8507

◇会報の投稿・編集に関して：太田理 0743-79-9665 会員交流コーナーなども太田宛メールか郵送で送ってください。 ma36ux75ml@kcn.jp 〒575-0013 四條畷市田原台 7-5-2

北河内自然愛好会 年会費 1000 円 郵便振替 00970-4-103735

目次

第411回例会「京都府立植物園の例会で出会えた春の妖精たち」栗田泰子	-----1
「コゴメイヌノフグリ」田中光彦	-----2
「北河内の里地里山に春を求めて」栗田泰子	-----2
「生活雑感 私の趣味」西畑敬一	-----3
「田原の里山だより」太田理	-----4
「身近な植物の花の観察」木村雅行	---4
「野草に癒されて～私のミニミニ観察会～」鈴木永子	---6
会員交流コーナー	---6
異動、編集後記	---8
カラーグラビア版	---別刷
例会案内	---別刷